

SEASON 夏



テーマ：温故知新

令和元年初めての夏！元号が変わるというのは、心機一転新たな気持ちになる清々しさがありますね。そこで今回は敢えて温故知新、故きを温めて新しきを知る、古来から読み継がれている本を紹介합니다。新たな年に先人の知恵を活かさせたらと思います。

☆『道をひらく』 松下幸之助/著 PHP 研究所

松下幸之助氏の本はビジネス書としても有名ですが、この本は古き良き日本人の心の原点ともいえます。思いやりの精神や自分自身を律する厳しさ、社会人としてのルールを守ることの大切さ等々を実に分かりやすく語り掛けるように書いてあります。時を経ても色あせず己の心に響きます。

☆『論語一語 生きるための智慧』 長尾剛/著 かんき出版

「論語」は、2500年前の中国の人物、孔子の残した言葉をまとめた書物です。孔子は「人のよき生き方は何か」ということへの答えを示し、誰もが「自信を持てる自分」「好きになれる自分」へと成長できる方法を教えてくれます。

☆『福沢諭吉の『学問のすゝめ』』 橋本治/著 幻冬舎

自由とは？平等とは？天皇って？まだ庶民が江戸脳だった明治5年に出版され当時20万部のベストセラーとなった『学問のすゝめ』。諭吉は何を学べと言っているのでしょうか。そしてなぜ、時代の節目節目にこの本が繰り返し読まれるのでしょうか。「あなたが学問をして世の中を動かす」そんな新しい時代に読んで欲しい一冊です。

☆『1分間武士道』 新渡戸稲造/[原]著、齋藤孝/監修 SBクリエイティブ

新渡戸稲造は、教育者や農業経済学者、前5千円札に印刷された人で有名になりました。『武士道』は1899年に英語で発表され、その後日本で刊行されました。日本人の精神の基盤が書かれており、日本人の品格、徳目と美德が分かります。

☆『坂村真民詩集 1～3』 坂村真民/著 サンマーク出版、サンマーク(発売)

坂村真民の詩碑は、全国に700以上もあります。多くの人に愛された詩人である彼の「二度とない人生だから」や「念ずれば花開く」など、一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか？半世紀以上読み継がれ、累計11万部を超える詩を味わってみましょう。

悩んだ時、迷った時、心に元気がなくなった時、そうだ！本を読もう！先人の知恵にヒントをもらおう。長い夏休みに、じっくりと自分と向き合ってみるのもいいのでは？トライ！トライ！トライ！！

